

・ 聖書詩篇	■ 令和二年十二月研究課題資料	舊譯聖書の詩歌	・ 雅歌	「雅歌」とは原文では「歌の中の最高の歌」といふ意味である。	男女の戀の歌であり、ユダヤ教では「諸書」のうちに入る。キリスト教では傳統的に預言書の前に置かれる。	C:\Users\1234\Desktop\聖書詩篇.txt 詩篇	・ 詩篇 舊約聖書に收められた百五十篇の神（ヤハウエ）への讚美の詩。	・ 詩篇の解説	ほとんどの詩が典禮（禮拜・奉神禮）に用ゐられた詩と神への感謝の詩に分類することができる。ユダヤ教では「テヒリーム」（讚美）と呼ぶ。七十人譯聖書における詩篇のギリシヤ語タイトル『プサルモイ』は、（心を
--------	-----------------	---------	------	-------------------------------	---	--------------------------------------	---------------------------------------	---------	---

動かすもの、複數形）に由來する。ユダヤ教聖書の排列では「諸書」（ケスビーム）の一つ。

本來歌唱を伴ひ、いくつかのものには調べの指定が註釋として残されてゐる。ヘブライ語テキストに本來つけられた曲は失はれてゐるが、「セラ」「ミクタム」などの曲の用語が残されてゐる。またテキストから、絃樂器管樂器（ラツパなど）・打樂器（シンバルなど）を用ゐたことが知られる。現在、ユダヤ

C:\Users\Y1234\Desktop\聖書詩篇.txt

人の傳統的樂器を用ゐて曲を復元する試みがなされてゐる。

また、キリスト教の傳統的教派では、多く詩篇は歌唱されるものであり、様々な音樂家によつて作曲され、多彩な音樂的表現を生む土壤ともなつてきた。

なほ、古代からの傳承では、その多くがダビデの作であるとされてゐるが（七十三の詩篇の表題にダビデの名が現れる）、近代聖書學の高等批評的には否定されてゐる。「ダビ

デの詩一などの表題はダビデによつて書かれたと考へずダビデに獻呈された詩と考へる研究者が多い。法的作品はモーセ、知惠的作品はソロモン、音楽と歌はダビデに歸することによる權威付けの意義も考へられる。重要なのは誰が作つたかといふことではなく共同體に受け入れられるものであるかといふことであつた。

市販の聖書の中には、新約聖書全卷に加へて舊約聖書の中から詩篇のみを拔萃して併せ

C:\user\1234\Desktop\聖書詩篇.txt

て収録し、『新約聖書 詩編付き』などの表題で發行されてゐるものもある。

・聖詠の「詩篇」との對比

日本聖書協會譯の詩篇がヘブライ語聖書を底本にしてゐるのに對し、正教會の聖詠は七十人譯聖書を底本にしてゐるため、譯文の違ひのみならず、區切り方・數へ方といった構成も多少異なる。

## 詩篇の特徴

詩篇を書いた著者の三分の一は不明で、分か  
つてゐる限り、最低七人の書き手がゐます。  
そのうちの一人であるダビデ王は、七十三篇  
分の詩篇を書きました。

詩篇は、聖書の中で最も長い本ですが、詩篇  
百十九篇は百七十六節の聖句があり、聖書の  
中で最も長い章となつてゐます。一方で詩篇  
百十七篇はたった二節しかなく、聖書の中で  
最も短い章です。

C:\Users\Y1234\Desktop\聖書詩篇.txt

また詩篇は、新約聖書の著者や登場人物によ  
つて四百回以上も引用される舊約聖書の本で  
す。新約聖書に含まれてゐる全節数は一般的  
に七千九百五十七節とされてゐるので、新約  
聖書のおよそ5%が詩篇から來てゐると言へ  
るでせう。

詩篇の構成について  
 詩篇は、聖書の編輯者によつて五つの小さな  
 本に分割されてゐます。そして、それぞれ「  
 アーメン、アーメン」といふ表現によつて、  
 卷末が結ばれてゐます。

- ・ 第一卷… 第一篇から第四十一篇
- ・ 第二卷… 第四十二篇から第七十二篇
- ・ 第三卷… 第七十三篇から第八十九篇
- ・ 第四卷… 第九十篇から第百六篇
- ・ 第五卷… 第百七篇から第百五十篇）。

▼ C:\Users\Y1234\Desktop\聖書詩篇.txt

また、ユダヤ教のラビたちの間では一般的に、  
 それぞれの卷がモーセ五書の構成と対応して  
 ゐると考へられてゐます

第一卷		創世記																	
第二卷		出埃及記																	
第三卷		レビ記																	
第四卷		民數記																	
第五卷		申命記																	